

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。

- 1 「自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力」を持った生徒の育成
- 2 「グローバルな視点で考える力」を持った生徒の育成
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成

## 2 中期的目標

## 1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成

(1) 学力の向上 (授業力向上、学習環境整備等)

- ア 生徒にとってより「魅力的な授業」「わかる授業」となるように、生徒による授業アンケート等も活用しつつ、組織的な取組を推進する。
- イ 生徒の理解が深まるように ICT 等を活用した授業改善についての研究を推進し、適切に活用する。
- ウ 生徒に自学自習力が身に付くように課題等を工夫する。

\* 授業アンケートの結果、授業満足度は平成30年度(第二回)が75.5%。これを引き上げ、2021年度には80%とする。

(2) 希望進路の実現

- ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。
- イ 「学力生活実態調査」を活用し、一人一人の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- ウ 新しい大学入試制度に対応するため、各種英語資格取得の奨励や主体性を持って多様な人と協働して学ぶ姿勢を身に付けさせるとともに、活動記録を適切に残す。

\* 生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度は平成30年度88.6%。これを毎年引き上げ、2021年度には90%とする。

\* 一人一人の希望進路に応じた丁寧な指導を行い、進路希望の多様化にも対応し、希望進路達成率80%以上とする。

## 2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成

(1) 使える英語力の育成

- ア 高大連携等による「グローバル専門コース」の充実と、英語4技能を育成する。
- イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、実用英語技能検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。

\* 平成30年度の実用英語検定資格取得者は第3回終了時点で74人、2021年度には80人とする。

(2) 国際感覚の育成

- ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。
- イ 海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、異文化理解教育に対する肯定率は平成30年度が83%。これを毎年引き上げ、2021年度には85%とする。

## 3. 豊かな人間力を持った生徒の育成

(1) 体験学習の充実

- ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。
- イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、地域との関わりに対する肯定率は平成30年度が75%。これを毎年引き上げ、2021年度には80%とする。

(2) 学校行事、部活動の振興

- ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。
- イ 部活動の活性化と効率的な運用により学習との両立を図る。

\* 部活動加入率は平成30年度が76%。これを毎年引き上げ、2021年度には80%とする。

(3) 規範意識の醸成

- ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。
- イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守る生徒を育成する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、規範意識に関する設問の肯定率は平成30年度が92%。2021年度も90%以上の水準を維持する。

(4) 人権意識の向上

- ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に人権教育を推進する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、人権教育に対する肯定率は平成30年度が83%。これを毎年引き上げ、2021年度には85%とする。

## 4. 信頼される学校づくり(教員力と情報発信力の向上)

## (1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。

## (2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。

## (3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率は平成30年度82%。これを毎年引き上げ、2021年度には85%とする。

\* 保護者向け学校教育自己診断における、情報発信に対する肯定率は平成30年度84%。これを毎年引き上げ、2021年度には90%とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校に入学してよかった」(生徒)の肯定率87%、「入学させてよかった」(保護者)の肯定率92%と何れも80%以上、「学校に行くのが楽しい」(生徒)の肯定率も84%と高い水準を維持している。「悩みなどを気軽に相談できる先生がいる」(生徒)の肯定率は57%であり、昨年よりも向上しているが、より一層生徒に寄り添った指導が必要である。</li> <li>・「進路情報の提供」に対する肯定率は生徒が88%、保護者が79%、「進路指導の充実」に対する肯定率は生徒が83%、保護者が77%を維持しているが、生徒と比較して保護者の肯定率が低い。これまで以上に保護者にも届く進路情報の提供を引き続き検討していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の満足度」に対する質問では生徒は72%、保護者は74%が肯定的な意見を持っている。一方で教員向けの「わかりやすい授業をする為に工夫を積極的に行っている学校である」との質問に対する肯定率は77%と、三者の間に若干の差がある。教員が取り組んでいる授業改善への取り組みを今後も継続していきたい。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「校則を守っている」の肯定率は生徒が93%、保護者が92%であり、落ち着いた学習環境を維持できている。一方で「生徒指導について理解できる」(生徒)の肯定率は71%と昨年より若干の向上が見られるが、より丁寧な指導と、時代に即した情報モラル等の指導法を検討していく必要がある。</li> </ul>	<p><b>【第1回】R1.6.17</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓部の活動に期待をしている。</li> <li>・3年の担任が初めての初任の教員に対するサポートをしっかりとやってほしい。</li> <li>・大学の名前だけにあこがれて進学をめざすのではなく、自分が何を学びたいかを考えた進路選択ができるような生徒になってほしいと思う。</li> <li>・受験回数増加と入試の多様化によって、ますます進路指導は大変になってくると思う。</li> </ul> <p><b>【第2回】R1.11.27</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートは、生徒が具体的なイメージを描きながら回答できる工夫が必要だ。</li> <li>・学力の向上に対する取組みでは、教員が主語になっている部分が多い。「生徒の理解が深まる」「自学自習・主体的な学び」など生徒が主語になる書き方をしてほしい</li> <li>・交流をしている保育園児にとって、吹奏楽部の演奏を聴いたり、サッカー部の練習を見たりするのが、良い刺激となっている。もっと交流できれば良いと思っている。</li> <li>・生徒は学習について前向き、一方で学習の方法がわからないと回答する生徒が多い。学習へのモチベーションが下がる時期により刺激を与える必要がある。</li> </ul> <p><b>【第3回】R2.2.17</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(生徒)本校に入学してよかった」の肯定率87%、「(保護者)入学させてよかった」の肯定率92%は、たいへん喜ばしいことである。</li> <li>・「授業の満足度」等に対する質問では生徒と保護者、教員の間に若干の差がある。教員が取り組んでいる授業改善への取り組みを今後も継続してほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

## 府立芥川高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成	<p>(1) 学力の向上 ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造する。</p> <p>イ 教員の授業力を向上させる。</p> <p>ウ 自学自習力をつける。</p> <p>(2) 希望進路の実現 ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。</p> <p>イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。</p>	<p>ア・「授業改善に向けた共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、目標やポイントをわかりやすく示し、最後に振り返りを行う授業、生徒が主体的に取り組む授業作りを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業アンケートの活用や各種研修への参加を奨励し、教員が自発的に授業改善に取り組む。</li> </ul> <p>イ・研究授業、教員相互の授業見学および意見交換、外部講師を招聘する研修会等を企画し、組織的な授業力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の整備とICTを活用した授業を先進校等の取組みを参考にして推進する。</li> </ul> <p>ウ・自学自習力をつけさせるよう、各教科で課題等を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別面談、学習到達度教材等を活用して、生徒の家庭学習時間増加のために、部活動との両立、生活時間の自己管理の習慣をつけさせるような啓発指導を行う。</li> </ul> <p>ア・「憧れる存在を見つけよう」をコンセプトとし社会に貢献する自分像を明確にイメージすることを目的として、直近の卒業生による進路講話や職業別ガイダンス等を実施する。</p> <p>イ・個別懇談等で、一人一人きめ細かい進路指導を実施する。また、活動記録を適切に残し活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試結果を分析し、大学別進学ガイダンスの内容をより実効性の高いものにする。</li> <li>P T A 学年懇談会等の機会を活用して進路講話等を実施し、保護者にも早い段階で生徒の希望進路実現に向けた意識を高めていただき、希望進路の実現を図る。</li> <li>「3年間の高校生活での学び」の一覧表などで学校行事や進路指導等で生徒に身に付けさせたい力をわかりやすく提示する。</li> </ul>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率67%以上。(H30; 63.3%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目)78%以上。(H30; 75.5%)</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率80%以上(H30; 第2回76.3%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度90%以上。(H30; 88.5%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度85%以上。(H30; 85.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度80%以上。(H30; 77.8%)</li> <li>希望進路達成率80%以上</li> </ul>	<p>ア・教科指導への肯定率72.4% 昨年よりも、9.1%向上している。これまでの授業改善への取り組みやICT機器の活用等が生徒に評価されているものと考えられる。今後も「授業力強化月間」や若手教員により研究授業や教員研修を実施していきたい。(◎)</p> <p>イ・アンケート結果の満足度は82.0%と前年度を6.5%上回った。ICT機器の活用や授業の中でのペアワークなどの取組みが生徒に評価されていると考えられる。(○)</p> <p>ウ・アンケート結果は79.8%で目標値である80%をやや下回っているが、前年度を3.5%上回っており、今後も自学自習習慣の定着に向けて効果的な課題設定や時間の有効的な利用促進する指導を続けたい。(○)</p> <p>ア・生徒の満足度は89.2%で目標値である90%をやや下回っているが、前年度を若干上回る水準を維持できた。次年度もキャリア教育と個別の進路相談を充実させるなど、更に一人一人の生徒に対応した進路指導を推進したい。(○)</p> <p>イ・生徒の満足度は87.5%(○)。保護者の満足度は79.1%と前年度を若干上回った(△)。保護者に対しては進路講演会・説明会・大学見学会などを実施したが、より一層ニーズに合ったものを提供し、家庭と連携して生徒の希望進路実現を図りたい。特に進学費用、奨学金等についての情報提供をさらに丁寧に行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望進路達成率81.8%(○)</li> </ul>
2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成	<p>(1) 使える英語力の育成 ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。</p> <p>イ 生徒の英語に関する資格への関心高め、英語検定等の資格取得を推進する。</p> <p>(2) 国際感覚の育成 ア 海外語学研修生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。</p> <p>イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会を確保する。</p>	<p>ア・グローバル専門コースにおいて、高大連携による特別授業や留学生や大学生との交流などの充実を図るとともに、学習成果の発表の機会を設ける。</p> <p>イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒には全員に英語学力調査の受験機会を与え、英語4技能を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル専門コースの取組みをコース以外の生徒に広げていく。</li> </ul> <p>ア・外国語指導員(N E T)や関係大学、関係機関の協力を得て生徒が国際交流を体験する機会をつくる。</p> <p>イ・オーストラリアや台湾の高校との学校生活交流、留学生の受け入れ、また台湾修学旅行を通して異文化理解の事前・事後学習と現地高校生との交流などにより国際感覚の育成を図る。</p>	<p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度80%以上。(H30; 82.5%)</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数75人以上。(H30; 74人)</p> <p>ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度90%以上。(H30; 81.6%)</p> <p>イ・学校教育自己診断における異文化理解の取組みへの満足度80%以上。(H30; 83.4%)</p>	<p>ア・グローバル専門コースの授業満足度は91.2%前年度を8.7%上回った。引続き、高大連携等の取組みの中身の充実を図りたい。(◎)</p> <p>イ・英語検定の資格取得者(合格者)60人。 英語4技能の習得の為、引続き英語検定等の資格を奨励し、英語力の育成を図っていきたい。(△)</p> <p>ア・台湾修学旅行における現地高校との学校交流プログラムの満足度87%で、目標値である90%をやや下回っているが、前年度を上回る評価を得ることができた。(○)</p> <p>イ・異文化理解の取組み満足度84.6% オーストラリアの高校と2学年の修学旅行での台湾の高校との国際交流や米国からの留学生受入れ等で異文化理解と国際感覚の育成を図った。(○)</p>

## 府立芥川高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>3. 豊かな人間力を持った生徒の育成</p>	<p>(1) 体験学習の充実 ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。 イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。 (2) 学校行事、部活動の振興 ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。 イ 部活動の活性化を図る。 (3) 規範意識の醸成 ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。 イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守る生徒を育成する。 (4) 人権意識の向上 ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。</p>	<p>ア・保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導を充実させ、より福祉に対する意識を高め効果的な学習機会にする。 イ・地域主催の行事等への積極的な参加、ボランティア活動、近隣中学校との部活動交流を拡充する。 ア・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。 イ・新入生の入部率向上を図るとともに、近隣の学校園や施設、団体との連携を深める。 ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。 ・携帯電話スマホ指導においては、保護者の協力のもとルールやマナーを遵守させる指導をさらに充実させる。SNS利用にあたっての情報モラル学習の徹底を図る。 イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会を捉え、専門機関等の協力のもと規範意識を向上させるための指導を行う。 ・登校時遅刻や授業遅刻の指導により、時間を守り、授業を大切にしている生徒を育てる。 ア・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。 ・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。 ・スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、教育相談をさらに充実させ、一人ひとりの成長を支援する。教員が教育相談のスキルを身に付けるよう研修を充実させる。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 80%以上。(H30 ; 83.4%) イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 78%以上 (H30 ; 75.2%) ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への外部招待者数を前年度比 5% 向上させる。(H30 ; 1,492 人) イ・部活動加入率 77%以上。(H30 ; 76%) ア・懲戒件数、10 件以下。(H30 ; 2 件) イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 90%以上の水準維持。(H30 ; 91.9%) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 83%以上を維持。(H30 ; 83.3%)</p>	<p>ア・肯定率は 84.6%。2 学年全員が行う老人ホーム実習と認定子ども園での保育実習の体験学習はコミュニケーション力育成にも効果があると考えられるため、今後も継続し、内容をより充実したものに発展させていきたい。(○) イ・肯定率は 81.1%と前年度を 5.9% 上回った。和太鼓部・吹奏楽部・ダンス部・軽音ロック部等で積極的に地域行事へ参加し交流機会をもつことができた。(◎) ア・外部招待者数の来場は合計 2046 人。本年度は体育祭・文化祭ともに好天に恵まれ、多くの来場者があった。(◎) イ・部活動加入率は 77%と前年度に引続き、高い水準を維持できている。新入生の入部率は 82.3%であり、昨年より若干減少したものの、運動部・文化部とも活発に活動している。(○) ア・懲戒件数 11 件と前年度から大きく増加した。その多くは SNS に関するものであり、来年度は情報モラル等に関する指導を強化していきたい。(△) イ・規範意識の肯定率は 93.1%と目標値を上回っている。学校生活全般において指導が浸透してきたものと考えられる。しかし、自転車マナーについては近隣からの苦情も多く、SNS が関係する指導案件が増加する傾向にあることから、この 2 点については次年度もきめ細かい指導を行う必要がある。(○) ア・肯定率は 84.4%と昨年度と同じ水準を維持している。今年度もデートDV、ヘイトスピーチなどのテーマを年間計画に基づき充実した人権学習を実施することができた。(○)</p>
<p>4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）</p>	<p>(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。 (2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。 (3) 中学生やその保護者に対して、適切な学校情報を発信する。</p>	<p>・校務検討委員会等を中心に、教職員の働き方改革の観点からも業務の円滑化・連携強化・平準化・効率化を図り、組織力を向上させる。 ・次世代を支える教員が中心となって企画運営する教員の自主研修の充実など、教員力向上を図る。 ・メールマガジンやホームページを活用し、必要な学校情報をよりタイムリーに発信する。 ・学校新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え、地域及び学校園向け広報を充実させる。 ・中学生やその保護者の興味や関心を的確に把握し、学校説明会や中学校への情報提供等をよりタイムリーかつニーズに合致したものにします。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率 83%以上。(H30 ; 82.3%) ・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率 85%以上。(H30 ; 84.3%) ・学校メールマガジンの配信回数 60 回以上を維持 (H30 ; 77 回) ・学校新聞「芥川」の発行回数、年間 10 回以上の水準を維持。(H30 ; 11 回)</p>	<p>・肯定率は 82.8%で目標値である 83%をやや下回ったが、昨年度を若干上回る水準を達成できた。教員がより連携し協力しながら取り組めるような組織作りや教員研修等を実施していきたい。(○) ・肯定率は 82.7%と昨年度より若干下がっている。学校ホームページや学校新聞「芥川」の更なる充実や、校長ブログを使ったタイムリーな情報提供を行ってきたい。(△) ・学校メールマガジン配信回数は 73 回。次年度も情報をタイムリーかつ、わかりやすく提供することを心がけたい。(○) ・新聞発行は年間で計 11 回発行した。保護者や地域との連携ツールとして有効に機能している。(○)</p>